

皆様おはようございます。9月に入りました。雨が多く、雷も強く光り、けたたましい音が鳴りました。

涼しい空気に変わり、秋の雰囲気を感じますこの頃、お元気でお過ごしでしょうか。依然新型コロナウイルスでは緊急事態宣言の中にあります。しかし広島・岡山の緊急事態宣言は来週の日曜日まででその後延長は無いかもしれません。皆様ぜひ感染症にお気をつけいただき、お元気にお過ごしいただきたく思っております。

使徒言行録も6章までやって参りました。ステファノ達7人が選ばれたと言う箇所が開かれております。弟子の数が増えてきました。そこでギリシア語で話す人とヘブライ語で話す人の間に揉め事が起こりました。

ヘブライ語を話すユダヤ人たちに向けて、ヘブライ語を話せない、ギリシャ語を話すユダヤ人から苦情が出たわけですがけれども、それはやもめの人たちへの食物の日々の分配のことでした。ギリシャ語話ユダヤ人が仲間たちから軽んじられていると苦情を申し出たのです。

ギリシャ語を話すユダヤ人と言うのは離散されたユダヤ人と言いまして古くは北王国がアッシリアに滅ぼされ捕囚となり、南ユダもバビロンに捉えられ捕囚になりパレスチナ追われていたその時に端を発するわけですがけれども、彼らが一緒に生活する中であってヘブライ語、正確にはアラム語なんですけれども、それを語らずしてその時の地中海世界で国際言語であったギリシャ語を話す、そういう人たちが多く生まれたと言う事ですね。ユダヤ人であつちとしても、その土地土地へ適応していくと言う流れの中であって、ユダヤ人としては生粋のユダヤ人の血筋はあるのですけれども、環境の中で長い歴史の中でギリシャ語しか話せないユダヤ人となった人たちが離散の歴史の中でいたということですね。それをヘブライ語を話す人たち、パレスチナにずっと住み続けたヘブライ語を話す、もしくはアラム語を話すユダヤ人たちは軽んじていたと言う事ですね。その背景、歴史、文化、言語の違いの中から教会の中に考えや意識の違いがあつて、そしてそれが1つの障壁となつて、群れが1つになるということを妨げ、そして互いの間にしこりができ、確執なつていたという出来事があつたわけです。

弟子の数が増えてきたと言う事は大変良いことなんですがそれに従つて教会がどんどん大きくなる時に、その違いに対応できないいろいろな考えに柔軟に考えていしことができない問題が生じました。

私たちのイメージとして、教会は家族的で、小ぢんまりしているものですが、神様はあるいはどんどんと教会を成長させ、家族的とばかり言つてられないような多様な価値観の方々を教会にお送りになられるかもしれません。そのよ

うな時、私たちはそれに対応することが出来るでしょうか。どのようにして、その起こった問題を解決していけるのでしょうか。

教会の成長と共にいろいろと煩雑を極め、ないがしろになる事が出て来る。意識の隅に会ったことがだんだんと顕在化してくる。多様性についていくことができない出来事が起こりそして教会の成長が阻害されると言うことがあり、そのようなことが今日の舞台として語られているわけです。

キリストは罪人のために十字架にかかり神様のひとり子が人間となって私たちの間に住まれ、そして罪を死を、呪いを引き受け、弟子の足の裏をさえ洗い、仕えるものの姿を私たちに伝えてくださったのですけれども、私たちにとっては考え方や背景が似ている人、考え方が似ている人、言葉が同じ人、出身が近い人、気心が知れた人、そういういろいろな事柄で身内意識を持ってそしてそうではない人を疎んじたり軽んじたりすると言うそういう弱さがあるのではないかと思います。それがこの教会の中でしこりとなって確執となって、教会の成長を阻害していたという、そういうことが今日の聖書の個所に書いてあります。どのようにして教会はこの問題を解決していったのでしょうか。

教会の外側においてはイエス様の御名を伝えるということには辱めを受けるほどのものにされたことを喜んで進んだと、先週の個所にありました。そして神様から出たことであれば滅ぼすことができないし止めることができないと言う具合に、勢いを持っていたこの宣教ですけれども、内側でこのような問題が起こったとき教会はどのように対処していたのでしょうか。

2節そこで、十二人は弟子をすべて呼び集めて言った。「わたしたちが、神の言葉をないがしろにして、食事の世話をするのは好ましくない。とありますけれども、この「ないがしろにして」という言葉は、先にギリシャ語を話すユダヤ人たちが食事の配給によって「軽んじられ」、「ないがしろにされていた」という言葉とほとんど意味の同じ言葉が使われています。

その食べ物の問題。あなた方がないがしろにされ軽んじてる問題は重々承知だが、それでも神の言葉が軽んじられていいだろうか、ないがしろにされていいだろうかと使徒たちは語ります。

食事の配給に比較したところ神の言葉が食事の配給よりも大切されるべきなのかということ、もちろん食べ物をとらなければ人は生きていけないので食事の配給も大切な事なのですが、この12人の使徒たちはこの神の御言葉の宣教というものに文字通り命をかけていたということがわかるその言葉となっております。食べ物の配給のお世話ならばそれは身内で出来るし、当たり前にしていくことが出来る。しかし御言葉の配給こそ今私たちが死守して、命がけでその道をこじ開けていかなければならない最重要な事であると彼らは考えていました。

3節それで、兄弟たち、あなたがたの中から、“霊”と知恵に満ちた評判の良い人を七人選びなさい。彼らにその仕事を任せよう。

よく知られた評判の良い人たちですね。彼らにその仕事を任せ、4節4 わたしたちは、祈りと御言葉の奉仕に専念することにします。

ひたすら祈りそして御言葉を語っていくということ。この祈りは礼拝共同体の祈りである礼拝を意味するとも言われています。御言葉をまず共同体が味わい祈り、礼拝しそして出て行ってみ言葉の奉仕をしていくうちに御言葉が伝わって行きます。御言葉を語っていくということがどうしても必要なんだ、そしてその根底に礼拝と祈りがあり、この事柄は何をおいても使徒である私たちがどうしても第一としなければならない奉仕であり、教会にとって、力の源なんだという意識がここには表れています。

「わたしたちが、神の言葉をないがしろにして、食事の世話をするのは好ましくない。」

「わたしたちは、祈りと御言葉の奉仕に専念することにします。」

ここにも神の言葉に御言葉という言葉が繰り返し書かれているんですね。神の言葉をないがしろにされるべきでない。祈りと御言葉の奉仕に専念することが今共同体にとっては大事なんだというありありとした意識があらわされています。そのために霊と知恵に満ちた評判の良い人たちを立ててそしてそのた配給の奉仕に携わってもらおうと、会衆の中からそういう人に立ってもらおうと、そういう話を提案したわけですね。会衆の中から、教会が御言葉に立って、命の言葉を語れるかどうか、のるかそるかの困難を克服する一手として、会衆の皆さん方の中から立ち上がる人たちが回収によって選ばれた訳です。

5節一同はこの提案に賛成し、信仰と聖霊に満ちている人ステファノと、ほかにフィリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、アンティオキア出身の改宗者ニコラオを選んで、

6:6 使徒たちの前に立たせた。使徒たちは、祈って彼らの上に手を置いた。会衆の一同がこれらの人を会衆の中から選びました。信仰と聖霊に満ち、神の言葉がないがしろにされず、祈りと御言葉の礼拝と宣教が守られていくために会衆はこの提案に賛成し、祈りのうちに、信仰と聖霊に満ちている7人を選びました。そして教会の成長のために困難を乗り越えて行きました。しこりや確執を乗り越えて、愛の共同体であるために、彼ら7人は夜も昼も祈り、励み続けました。

7節6:7 こうして、神の言葉はますます広まり、弟子の数はエルサレムで非常に増えていき、祭司も大勢この信仰に入った。とあります。

教会の中でないがしろにできない問題がありました。成長していくための課題がありました。そのために信仰と聖霊に満ちた人たちが選ばれ、彼らは立ち上がり、仕え、神の言葉がますます広まるため、神の言葉がないがしろに、軽んじられないために、そして祈りと御言葉の奉仕に専念するために、会衆の中から、いわば今日であれば、会衆である皆様方の中から立ち上がった人たちであったということです。そして、ついにあの、権威づくめで平行線であった、到底頑固であった支配者側であった祭司たちも大勢が、神様ご自身が指し示す、御言葉の指し示す救い主イエス・キリストを信じる信仰に入って行きました。これは大きな大きな社会的な変革の出来事でした。

「弟子の数はエルサレムで非常に増えていき」とありましたが、これは使徒言行録1章のイエス様の御言葉の成就です。

1:8 あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」

ここでエルサレムに福音が語られてきました。ペテロとヨハネと使徒たちの証があり、そしていよいよユダヤとサマリア、そして地の果てまで証しの働きがどんどんどんどん、信仰と精霊に満ちている会衆の人たちの力によって教会の一致が保たれ、神の言葉がますます広がって行きました。

そのためには、会衆の間から選ばれた信徒の方々の働きが非常に大きかったということが記録されています。教会でいろいろな問題があり、働きが深まっていくことを妨げようとする困難があるかもしれません。しかし会衆の皆様方が聖霊による祈りと信仰により立ち上がっていただき、そして一人一人が互いに仕え、愛し、神の言葉が重んじられる、その上で言葉の奉仕に専念する働きが生まれ、神の言葉がますます広がっていくんだということを今日のみ言葉から教えられます。

弟子の数が増えてきて、それはいいことなのですが、時に問題が起こり、しかし問題を解決していく一枚岩の集まりがあり、そして乗り越えてさらにさらに広く神の言葉広がっていくという出来事を見ました。

1つの何か良いことが起こると障壁になるものが生まれますが、神の家族はなおそれを祈り、乗り越えるために、会衆の中から役員を決めたり、祈りが起こったりして生きる体がそれをみんなで乗り越えて、さらに大きな所へ高みへと深い働きと、神の言葉を携えて進んで行く、それが神の教会なんだということを教えられます。何よりもまず神の言葉が大切であるということは聖書の多くの所に示してあります。

マタイ 6章 6:25 それだから、あなたがたに言うておく。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思いわずらい、何を着ようかと自分のからだのことで思いわずらうな。命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか。

6:26 空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取り入れることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか。

6:27 あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。

6:28 また、なぜ、着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。

6:29 しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。

6:30 きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずがあろうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。

6:31 だから、何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言うて思いわずらうな。

6:32 これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。

6:33 まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

6:34 だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦勞は、その日一日だけで十分である。

アモス 8:11 見よ、その日が来ればと／主なる神は言われる。わたしは大地に飢えを送る。それはパンに飢えることでもなく／水に渴くことでもなく／主の言葉を聞くことのできぬ飢えと渴きだ。

8:12 人々は海から海へと巡り／北から東へとよろめき歩いて／主の言葉を探し求めるが／見いだすことはできない。

8:13 その日には、美しいおとめも力強い若者も／渴きのために気を失う。

申命記 8:2 あなたの神、主が導かれたこの四十年の荒れ野の旅を思い起こしなさい。こうして主はあなたを苦しめて試し、あなたの心にあること、すなわち御自分の戒めを守るかどうかを知ろうとされた。

8:3 主はあなたを苦しめ、飢えさせ、あなたも先祖も味わったことのないマナを食べさせられた。人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きることをあなたに知らせるためであった。

8:4 この四十年の間、あなたのまとう着物は古びず、足がはれることもなかった。

8:5 あなたは、人が自分の子を訓練するように、あなたの神、主があなたを訓練されることを心に留めなさい。

8:6 あなたの神、主の戒めを守り、主の道を歩み、彼を畏れなさい。

## 2 コリント

4:5 わたしたちは、自分自身を宣べ伝えるのではなく、主であるイエス・キリストを宣べ伝えています。わたしたち自身は、イエスのためにあなたがたに仕える僕なのです。

4:6 「闇から光が輝き出よ」と命じられた神は、わたしたちの心の内に輝いて、イエス・キリストの御顔に輝く神の栄光を悟る光を与えてくださいました。

4:7 ところで、わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。この並外れて偉大な力が神のものであって、わたしたちから出たものでないことが明らかになるために。

4:8 わたしたちは、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず、

4:9 虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされない。

4:10 わたしたちは、いつもイエスの死を体にまっています、イエスの命がこの体に現れるために。

4:11 わたしたちは生きている間、絶えずイエスのために死にさらされています、死ぬはずのこの身にイエスの命が現れるために。

4:12 こうして、わたしたちの内には死が働き、あなたがたの内には命が働いていることとなります。

4:13 「わたしは信じた。それで、わたしは語った」と書いてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っているので、わたしたちも信じ、それだからこそ語ってもいます。

4:14 主イエスを復活させた神が、イエスと共にわたしたちをも復活させ、あなたがたと一緒に御前に立たせてくださると、わたしたちは知っています。

4:15 すべてこれらのことは、あなたがたのためであり、多くの人々が豊かに恵みを受け、感謝の念に満ちて神に栄光を帰すようになるためです。

4:16 だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。

4:17 わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。

4:18 わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。

本当に私たち必要なのはパンだけではなくてパンを与えて下さるお方そのものです。

ヘブライ 11:1 信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。

11:2 昔の人たちは、この信仰のゆえに神に認められました。

11:3 信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉によって創造され、従って見えるものは、目に見えているものからできたのではないことが分かるのです。

私たちのこの神の御言葉こそが重んずるべき最高の、喜ばしき、優先されるべき1つのことであるということを心に留めましょう。

私たちは神の御言葉の前進のため聖霊と信仰にあって互いに支え支えあい、助け合い、尊重しあい、御言葉が力を持って私たちの群れから進んでいくように力を合わせていこうではありませんか。